

島根県温泉津町沖で漁獲された大型マンボウ *Mola mola* の記録

川上 靖¹・平尾和幸・一澤 圭・安藤重敏

〒 680-0011 鳥取市東町 2-124 鳥取県立博物館

¹ E-mail: kawakamiy@pref.tottori.jp

A record of the ocean sunfish, *Mola mola* (Tetraodontiformes: Molidae)
from Shimane Prefecture, the Sea of Japan

Yasushi KAWAKAMI¹, Kazuyuki HIRAO, Kei ICHISAWA and Shigetoshi ANDO

Tottori Prefectural Museum, Higashi-machi 2-124, Tottori, 680-0011 Japan

日本周辺海域に出現するマンボウ類としては、マンボウ *Mola mola* (Linnaeus, 1758), トンガリヤリマンボウ *Matsurus oxyuropterus* (Bleeker, 1873), ヤリマンボウ *Masturus lanceolatus* (Lienard, 1840), クサビフグ *Ranzania laevis* (Pennant, 1776) が知られている(松浦, 1988)。なお、トンガリヤリマンボウとヤリマンボウの種別は未解決のままである。これらのうち主要な漁獲魚種はマンボウであり(相良・小澤, 2002a), 漁獲量では宮城県などの太平洋側が圧倒的に多く, 日本海側はきわめて少ない(相良・小澤, 2002b)。また, 全長 3

m 規模の大型のマンボウとなると, 漁獲地は宮城県・茨城県沖などに限られ, 日本海での記録はほとんど知られていない。

2004(平成 16)年 11 月 18 日に, 島根県邇摩郡温泉津町沖の日本海で全長 275 cm の大型マンボウが漁獲され, 境港(鳥取県境港市)に水揚げされた(写真 1)。貴重な記録になると思われるので報告する。

種名: マンボウ *Mola mola* (Linnaeus, 1758) (フグ目マンボウ科)

漁獲日: 2004(平成 16)年 11 月 18 日

漁獲場所: 日本海(島根県邇摩郡温泉津町の沖)

境港(鳥取県境港市)に水揚げ

漁獲漁具: 旋網

漁獲者: 共和水産(鳥取県境港市)

計測値:

全長 total length: 275 cm,

頭長(吻端から鰓孔の前縁まで) head length (distance from fore margin of gill slit to tip of snout): 62 cm,

吻長(吻端から眼の前縁まで) snout length: 25 cm,

体高 body depth: 143 cm,

眼径 eye diameter: 7.5 cm,

胸鰭長 pectoral fin length: 33 cm,

胸鰭幅 pectoral fin width: 32 cm,

背鰭長 dorsal fin length: 84 cm,

背鰭の基部の幅 dorsal fin width: 62 cm,

臀鰭長 anal fin length: 81 cm,

臀鰭の基部の幅 anal fin width: 49 cm,

体幅(最大幅) greatest body width: 48 cm,

体重 body mass: 1.15 t



写真 1. 水揚げされた大型のマンボウ

臀鰭の欠損

このマンボウの臀鰭の先端部分は、約 6 cm × 6 cm 角、直角に欠損していた(写真 2)。また、残った臀鰭には直角に 1 cm × 1 cm 程度の切り込みもあった。人工的に切りとる以外にこのような欠損は考えられないため、「標識」か、あるいは「DNA 分析用試料の採取跡」ではないかと推測される。このことに関連すると思われる情報をご存じの方はご連絡いただければ幸いです。



写真 2. 欠損した臀鰭の先端部分

舵鰭の特徴

舵鰭は「波形」であった(写真 3)。これは舵鰭をつくっている軟条の骨板と骨板の間隔が開いているため、その間が突出して形成される(Fraser-Brunner, 1951)。マンボウ属 *Mola* には、もう 1 種、オーストラリアに分布するとされているゴウシュウマンボウ *Mola ramsayi* (Giglioli, 1883) があるが、骨板と骨板の間は狭いのが特徴である。一方、マンボウは骨板と骨板の間が開いているのが特徴であり、この個体はマンボウ *Mola mola* であると同定された。

Fraser-Brunner(1951)によると、舵鰭の強い「波形」は、大型の雄にみられる特徴であると考えられている。この個体の雌雄については、今後予定されている解剖の結果を待ちたい。



写真 3. マンボウの舵鰭

付 記

この大型のマンボウは、2005 年 3 月現在、冷凍保管されているが、境港市により剥製標本にされ、2006(平成 18)年の春には、海とくらしの資料館(境港市)において展示公開の予定である。

また、DNA 分析用の試料は、国立科学博物館動物第二研究室の松浦啓一室長と、広島大学大学院生物圏科学研究科水圏資源生物学教室に提供された。最近、日本周辺には遺伝的に異なる 2 つの集団がいることなどが解明されてきており(相良ら、印刷中; 吉田ら、印刷中)、今後の研究の進展が期待される。

謝 辞

マンボウの調査では、鳥取県水産試験場の下山俊一・倉長亮二の両氏をはじめとする職員の方々、そして共和水産、山陰旋網漁協、境港市などの多くの方々にご配慮、ご協力いただいた。また、松浦啓一博士(国立科学博物館)には調査方法などご指導いただいた。相良恒太郎・吉田有貴子の両氏からは有益な情報を提供いただいた。以上の方々に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- Fraser-Brunner, A. (1951) The ocean sunfishes (family Molidae). Bulletin of the British Museum (Natural History) Zoology 1(6) 87-121.
- 松浦啓一(1988) マンボウ科 Molidae. p.352. In: 日本産魚類大図鑑第 2 版. 東海大学出版会(東京). 466 pp.
- 相良恒太郎・小澤貴和(2002a) 日本周辺におけるマンボウ類に関するアンケート調査結果. 水産海洋研究 66(3): 164-167.
- 相良恒太郎・小澤貴和(2002b) 4 県におけるマンボウ類の漁獲状況. 鹿児島大学水産学部紀要 51: 27-33.
- 相良恒太郎・吉田有貴子・西堀正英・国吉久人・海野徹也・坂井陽一・橋本博明・具島健二(印刷中) 日本周辺海域に出現するマンボウ *Mola mola* にみとめられた 2 つの集団. 魚類学雑誌.
- 吉田有貴子・相良恒太郎・西堀正英・国吉久人・海野徹也・坂井陽一・橋本博明・具島健二(印刷中) 日本周辺海域に出現するマンボウ *Mola mola* のミトコンドリア DNA を用いた個体群解析. DNA 多型 Vol. 13.